

( 限 内 部 )

海軍公報 (部内限) 第八百十四號

海軍大臣官房

昭和九年六月十二日(火)

○ 通 牒

官房第二六七四號  
昭和九年六月十二日

海軍次官

所屬長官殿

海軍工作應増服業ニ關スル件申進

當分ノ間海軍工務規則第三十七條ノ規定ニ拘ラズ各廳長ハ同條第二項該當ノモノニ對シテハ事後速ニ所屬長官ニ、同第三項該當ノモノニ對シテハ豫メ海軍大臣ニ届出ツルコトトシ増服業ヲ實施シ得ルコトニ定メラレ候

經契第三號ノ三三九

昭和九年四月一日

關係各廳長殿

海軍省經理局長  
海軍艦政本部長  
海軍省軍需局長

廢止

麻帆布及艦船用リノリウム購買合併契約締結ノ件通牒  
首題ノ件左記ノ通契約締結候條可然取計相成度  
記  
九契雜第貳號

契 約 書

海軍省經理局長村上春一(以下甲ト稱ス)ハ麻帆布(以下本品ト稱ス)購買ニ關シ帝國製麻株式會社取締役社長四條隆英(以下乙ト稱ス)ト契約スルコト左ノ如シ第壹條 乙ハ昭和九年四月壹日以降昭和九年九月參拾日ニ至ル期間甲若ハ海軍工廠及工作部並ニ軍需部(以下丙ト稱ス)ノ註文ニヨリ左記價格ヲ以テ本品ヲ供給スルモノトス

品 名	數量	價 格	摘 要
上帆布壹號 (號 壹號)	壹米	壹六六	
同 上貳號 (同 貳號)	同	壹五九	

海軍公報(部内限) 第八百十四號 昭和九年六月十二日

二八九

1270

同	上參號(同參號)	同	壹五壹
同	上四號(同四號)	同	壹四參
同	上五號(同五號)	同	壹參五
同	上六號(同六號)	同	壹貳七
同	上七號(同七號)	同	壹壹九
同	上八號(同八號)	同	壹壹壹
並帆布壹號(小錨壹號)	同	同	九五
同上貳號(同貳號)	同	同	九參
同上參號(同參號)	同	同	九〇
同上四號(同四號)	同	同	八八
同上五號(同五號)	同	同	八六
同上六號(同六號)	同	同	八四
黒染帆布	同	同	壹八貳

本單價中ニハ納入地迄ノ持込費ヲ含ム  
 第貳條 本品ハ官ノ指定スル規格ニ合格セルモノナル  
 ヲ要ス

第參條 甲若ハ丙ガ本品ノ供給ヲ受ケントスルトキハ  
 寸法、規格、數量、納期、納入場所其他必要ナル事  
 項ヲ記載シタル註文書ヲ乙ニ送付ス  
 第四條 乙ハ前條ノ註文書ヲ受ケタルトキハ指定事項  
 ニ應ジ遲滞ナク納入スルモノトス  
 第五條 本品納入地ニ到達シタルトキハ受領應ニ於テ  
 必要ト認マル検査ヲ行ヒ合格ノ上之ガ引渡ヲ受クル  
 モノトス  
 第六條 乙ハ本品ノ納入ヲ終リタルトキハ内譯明細書  
 ヲ附シタル代金請求書ヲ受領應ニ提出スルモノトス  
 分割納入ノ場合ニアリテハ前項ニ準ジ請求書ヲ提出  
 スルコトヲ得  
 第七條 官ニ納入シタル本品代價ハ前條ニ依リ代金請  
 求書受理後拾五日以内ニ當該支出官ニ於テ支拂フモ  
 ノトス  
 第八條 乙ハ當該支出官ノ承諾ヲ受クルニ非ラザレバ  
 本契約ニ因リテ生ズル官ニ對スル債權ヲ第三者ニ讓  
 渡スルコトヲ得ザルモノトス  
 第九條 本契約ニ明掲ノ外ハ海軍契約規程竝ニ同施行  
 手續ニ依ルモノトス  
 右契約ヲ證スル爲メ本書試通ヲ作り各自記名捺印シテ

各其ノ壹通ヲ保有スルモノナリ

昭和九年四月壹日

海軍省經理局長 村上 春一

帝國製麻株式會社

取締役社長 四條 隆英

九契雜第參號

契約書

海軍省經理局長村上春一(以下甲ト稱ス)ハ艦船用リ  
ノリウム(以下本品ト稱ス)購買ニ關シ東洋リノリウ  
ム株式會社代表取締役加藤正男代理東京市京橋區銀座  
西貳丁目壹番地高島屋飯田株式會社取締役社長飯田藤  
二郎(以下乙ト稱ス)ト契約スルコト左ノ如シ  
第壹條 乙ハ昭和九年四月壹日以降昭和十年參月參拾  
壹日ニ至ル期間甲若ハ海軍工廠及工作部並ニ軍需部  
(以下丙ト稱ス)ノ注文ニヨリ左記價格ヲ以テ本品ヲ  
供給スルモノトス

品	種	單價(壹米ニ付)
リノリウム茶色三耗厚		七四〇〇
同	四耗厚	九五〇〇

リノリウム綠色三耗厚	八參〇〇
同	壹〇七〇〇

本單價中ニハ納入地迄ノ持込費ヲ含ム

第貳條 本品ハ官ノ指定スル規格ニ合格セルモノナルヲ要ス

第參條 甲若ハ丙ガ本品ノ供給ヲ受ケントスルトキハ寸法、規格、數量、納期、納入場所其他必要ナル事項ヲ記載シタル注文書ヲ乙ニ送付ス

第四條 乙ハ前條ノ注文書ヲ受ケタルトキハ指定事項ニ應ジ遲滞ナク納入スルモノトス

第五條 本品納入地ニ到達シタルトキハ受領應ニ於テ必要ト認ムル検査ヲ行ヒ合格ノ上之ガ引渡ヲ受クルモノトス

第六條 乙ハ本品ノ納入ヲ終リタルトキハ内譯明細書ヲ附シタル代金請求書ヲ受領應ニ提出スルモノトス

分割納入ノ場合ニアリテハ前項ニ準ジ請求書ヲ提出スルコトヲ得

第七條 官ニ納入シタル本品代價ハ前條ニ依リ代金請求書受理後十五日以内ニ當該支出官ニ於テ支拂フモノトス

海軍公報(部内限) 第千八百十四號 昭和九年六月十二日

二九一

1272

第八條 乙ハ當該支出官ノ承諾ヲ受クルニ非ラザレバ  
本契約ニ因リテ生ズル官ニ對スル債權ヲ第三者ニ讓  
渡スルコトヲ得ザルモノトス

第九條 本契約ニ明掲ノ外ハ海軍契約規程並ニ同施行  
手續ニ依ルモノトス

右契約ヲ證スル爲メ本書試通ヲ作り各自記名捺印シテ  
各其ノ壹通ヲ保有スルモノナリ

昭和九年四月壹日

海軍省經理局長 村 上 春 一

兵庫縣川邊郡伊丹町五百五拾八番地

東洋リノリウム株式會社代表取締役

加 藤 正 男 代理

東京市京橋區銀座西貳丁目壹番地

高島屋 飯田株式會社

取締役社長 飯 田 藤 二 郎

○ 辭 令

海軍大佐 大西 瀧治郎

滿洲國へ出張ヲ命ス(訪海軍省)

( 限 内 部 )

海軍公報 (部内限) 第千八百十五號

海軍大臣官房

昭和九年六月十三日(水)

○通牒

教育第五〇號ノ一七

昭和九年六月十一日

海軍省教育局

關係各廳御中

無線電信遠距離受信檢定成績調査資料  
ノ件通知

昭和九年六月第十七回無線電信遠距離受信檢定信文送  
信要目左記ノ通

記

信文 東京海軍無線電信所 送信

番號	送信日時	速度(分間)	信文修正
一	六月七日 午後一時二分	八〇	
二	同 一時七分	八〇	
三	同 一時十一分	八〇	
四	同 一時十五分	八〇	
五	同 一時十八分	八〇	
六	同 一時二十一分	八〇	
七	同 一時二十六分	八〇	
九	同 一時三十二分	八〇	
一〇	同 一時三十五分	八〇	
一一	同 一時三十九分	八〇	
一二	同 一時四十二分	八〇	
一三	同 一時四十五分	八〇	
一四	同 一時四十八分	八〇	
一五	同 一時五十分	八〇	

海軍公報(部内限) 第千八百十五號 昭和九年六月十三日

二九三

1274

一六	同	一時五十三分	八〇
一七	同	一時五十六分	八〇
備	一、天 候 晴		
考	一、送信状態 良好		
	一、タナ八取消		

○ 辭 令

海軍大佐 山口 多聞

中華民國及滿洲國へ出張ヲ命ス(第海軍省)

○ 雜 款

○ 訂 正

本月四日附録(加算調書貼付用トシテ別ニ配付ノ分ヲ含ム)昭和八年内閣告示第五號ニ依ル艦船恩給年加算始終期(其ノ二)中秋(三五頁)、薄(二七頁)、藤(二八頁)、葛(三〇頁)ノ部各「二二、一ヨリ」「二二、二ヨリ」「二二、四ヨリ」ニ改メ、同八日辭令欄海軍軍醫大尉南里專一ノ辭令文中「六月二十一日」ヲ「六月二十七日」ニ訂正ス

( 限 内 部 )

海軍公報(部内限)號外

〇 令 達

昭和九年六月十三日(水)

海軍大臣官房

官房第二七〇四號

艦需品定額表中數量左ノ通定ム

昭和九年六月十三日

砲術長主管

海 軍 大 臣

艦船部隊名	類別番號	品名	數稱	備用品		消耗品		同類上	記 事
				第十三類ノ二〇	第十三類ノ八	第十三類ノ八	第十三類ノ一〇		
長門、陸奥	一、〇五〇	水泳帽	個	七〇	米	木綿布 白黒 赤緑	米	二七五	
扶桑、山城	一、〇三五	水泳帽	個	七〇	米	木綿布 白黒 赤緑	米	二七〇	
伊勢、日向	一、一〇五	水泳帽	個	七五	米	木綿布 白黒 赤緑	米	二九〇	
金剛、霧島	八五五	水泳帽	個	六〇	米	木綿布 白黒 赤緑	米	二三〇	

海軍公報(部内限)號外

1276

巖島	韓崎	大鯨	迅鯨、長鯨	鳳翔	龍驤	加賀、赤城	天龍、龍田、夕張	二等巡洋艦 (天龍、龍田、夕張ヲ除ク)	衣笠、青葉	加古、古鷹	高雄、愛宕、鳥海、摩耶	妙高、那智、足柄、羽黒	比叡	榛名
一九〇	二二五	三四五	二九五	四四〇	七三五	一、〇四〇	二六五	三六〇	五一五	五〇五	六一〇	六三五	六六〇	八九五
一五	一五	二五	二〇	三〇	五〇	七〇	二〇	二五	三五	三五	四〇	四二	四五	六五
五〇	六〇	九〇	八〇	一一五	一九五	二七〇	七〇	九五	一三五	一三五	一六〇	一六五	一七五	二三五



掃海艇	二等潜水艦	一等潜水艦	二等驅逐艦、水雷艇	峯風型、神風型、睦月型驅逐艦	吹雪型、初春型驅逐艦	伏見、隅田	熱海、二見	春日	八雲、磐手、常磐	淺間、出雲	駒橋、嵯峨、宇治	對馬	白鷹、淀	勝力、八重山
七五	四〇	五五	九〇	一二〇	一七五	四〇	五〇	四三五	四八〇	五一五	八五	二五〇	一二〇	一五〇
五	三	四	六	八	一五	三	四	三〇	三二	三五	六	一七	八	一〇
二〇	一〇	一五	二五	三〇	四五	一〇	一五	一一五	一二五	一三五	二五	六五	三〇	四〇

朝日	二三〇	一六	六〇
敷島	一四〇	一〇	三五
攝津	二九五	二〇	八〇
安宅、大和、膠州、青島、大泊	一〇〇	七	二五
室戸、野島	一一五	八	三〇
洲崎	一四五	一〇	三五
神威	一三〇	九	三五
能登呂、知床、襟裳、佐多	一七〇	一五	四五
鶴見、隠戸、早鞆、鳴戸	三、二七〇	二二〇	八五〇
問宮	二、三六〇	一五七	六一五
横須賀海兵團	二、四七〇	一六五	六四〇
吳海兵團	三二〇	二五	八五
佐世保海兵團	二九五	二〇	八〇
横須賀、佐世保各防備隊	二八五	二〇	七五
馬公、鎮海各防備隊	二七〇	一八	七〇
舞鶴防備隊			

東京海軍無線電信所甲、乙	佐世保海軍無線電信所	大湊要港部	旅順要港部	鎮海要港部	馬公要港部	舞鶴要港部司令部	大村海軍航空隊	佐伯海軍航空隊	佐世保海軍航空隊	吳、大湊各海軍航空隊	館山海軍航空隊	霞ヶ浦海軍航空隊	同 豫科練習部	横須賀海軍航空隊	大湊防備隊
四五	八〇	一五五	九五	一〇五	一四〇	四七五	一八五	三七五	一三〇	九三五	一七八〇	四四〇	八六五	二五五	
四	六	一〇	六	七	一〇	三二	一二	二五	九	六五	一二〇	三〇	五七	一七	
一一	二〇	四〇	二五	三〇	三五	一一五	五〇	一〇〇	三五	二四五	四六五	一一五	二二五	六五	

海軍公報(部内限) 號外

五

1280

横須賀、吳各海軍無線電信所 大湊、舞鶴、馬公、旅順、父島 各海軍無線電信所		三五	二五	三	一〇	記事 本數量ハ定員ヲ置カザル第四豫備艦ヲ除ク
砲艦、敷設艦、潜水母艦、神威 能登呂、驅逐艦、潜水艦、水雷 艇、掃海艇、特務艦、特務艇		部	部	部	部	
艦船名 類別番號 品名 數稱		消耗品 第三類ノ一六	同 第三類ノ一七上	彈火藥庫 日誌	彈火藥庫 番兵手帳	各四 各三〇 記 事
記事 本數量ハ定員ヲ置カザル第四豫備艦ヲ除ク						

1281

( 限 内 部 )

海軍公報 (部内限) 第千八百十六號

昭和九年六月十四日(木)  
海軍大臣官房

○ 令 達

官房第九五號ノ三  
雜役船ノ所屬左ノ通變更ス

昭和九年六月十四日

海軍大臣

船種	船名又ハ 公稱番號	舊所屬	新所屬	定數別	記事
曳船	黄金	旅順海軍 無線電信	旅順要港	臨時	
曳船兼交 通船 (百三十五艘)	第六三號	所無			
起重機船 (噸位十五噸)	第一充號				

○ 辭 令

(各通)  
海軍軍醫中尉 茅野 有  
同 波多野 克巳

○ 雜 款

昭和九年六月二十日ヨリ八月三十一日迄臨時第一潛  
水戰隊司令部附被仰付(海軍省)

○ 郵便物發送先

横須賀警備戰隊司令部、軍艦比叡、鳳翔、第三驅逐  
隊(島風、灘風、汐風、夕風)宛  
六月十六日迄ニ到達見込ノモノハ 横 須 賀  
同 二十三日迄ニ 同 根 須 賀  
其ノ後ハ 横 須 賀  
軍艦木曾、第七驅逐隊(潮、朧、曙)宛  
六月十六日迄ニ到達見込ノモノハ 横 須 賀  
同 二十三日迄ニ 同 横 須 賀  
其ノ後ハ 横 須 賀

海軍公報(部内限) 第千八百十六號 昭和九年六月十四日

二九五

( 限 内 部 )

海軍公報(部内限)號外

○ 令 達

昭和九年六月十四日(木)  
海軍大臣官房

官房第二四三四號ノ二  
昭和九年度新造雜役船ノ船種、公稱番號及所屬等ヲ左ノ通定ム  
昭和九年六月十四日

海 軍 大 臣

船 種	公稱番號	所 屬	定 數 別	製 造 所	契 約 納 入 場 所	事 記	備 考
	第三〇五號	佐世保防備隊					
運 貨 船 (特型)(十四米)	第三〇五號	佐世保防備隊	臨時附屬	宇品造船所	吳海軍工廠	昭 和 九 年 六 月 二 十 日	
同	第三〇五號	吳防備隊	臨時附屬	宇品造船所	吳海軍工廠	同 六 月 二 十 日	
(同)	第三〇五號	吳防備隊	臨時附屬	宇品造船所	吳海軍工廠	同 七 月 二 十 日	

海軍公報(部内限)號外

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第千八百十七號

海軍大臣官房

昭和九年六月十六日(土)

○雜款

○郵便物發送先

第七戰隊司令部、軍艦長良、五十鈴、名取宛

六月二十七日迄ニ到達見込ノモノハ 佐 世 保

其ノ後ハ 第一艦隊司令部ニ同ジ

海軍公報(部内限) 第千八百十七號 昭和九年六月十六日

二九七

1284

( 限 内 部 )

海軍公報 (部内限) 第千八百十八號

昭和九年六月十八日(月)  
海軍大臣官房

○ 令 達

官房第二七七五號

旅順要港部所屬ノ雜役船ニシテ船體、機關ノ修理工事ヲ部外工場ニ委託スル必要アルトキハ艦船造修規則ニ依ラズ左記ニ依リ處理スベシ

昭和九年六月十八日

海軍大臣

- 一、船體、機關ノ修理工事ヲ部外工場ニ委託スル必要アルトキハ要港部司令官ハ所定豫算額ノ範圍ニ於テ之ヲ施行スルコトヲ得
- 二、修理費豫算ハ毎年度初頭海軍艦政本部長ヲシテ要港部司令官ニ通報セシム
- 三、修理工事終了シタル時ハ要港部司令官ハ工場名、工事方案、工事日數、費額並ニ契約書寫等ヲ具シ海軍艦政本部長ニ通報スベシ
- 四、工事費用ハ要港部主計長ニ於テ之ヲ支拂フベシ

○ 通 牒

昭和九年海軍大演習事務開始左ノ通

昭和九年六月十六日

大演習統監部

赤軍第四艦隊司令部ハ六月二十一日ヨリ海軍大學校ニ於テ事務取扱ヲ開始シ七月十八日伊勢ニ變更ス

○ 辭 令

海軍少佐 中堂 觀惠

中華民國及香港へ出張ヲ命ス(其時海軍省)

○ 雜 款

○ 郵便物發送先  
軍艦能登呂宛  
當分ノ間

函 館

海軍公報 (部内限) 第千八百十八號 昭和九年六月十八日

二九九



( 部 内 限 )

海軍公報 (部内限) 第千八百十九號

海軍大臣官房

昭和九年六月十九日(火)

○ 令 達

官房第二七七七號

昭和九年海軍大演習中臨時編成部隊ノ參謀官又ハ副官ハ飾緒ヲ佩用スベシ

昭和九年六月十九日

海軍大臣

○ 通 牒

軍務一第七五號

昭和九年六月十九日

海軍省軍務局長

各 應 長 殿

昭和九年度大演習ノ際ニ於ケル儀禮施行ニ關スル件申進

昭和九年海軍大演習第一期演習中演習參加艦船部隊ノ

儀禮ハ昭和八年軍務一第六八號(昭和八年五月十六日海軍公報(部内限))ニ據ルコトト被定候

經契第三號ノ三四〇

昭和九年四月一日

海軍省經理局長

關係各應長殿

海軍用鋼材購買合併契約締結ノ件通牒

首題ノ件左記ノ通日本製鐵株式會社ト契約締結致候條右ニ依リ處理相成度

契 約 書

海軍省經理局長村上春一(以下甲ト稱ス)ハ海軍造船、造兵、建築及其ノ他必要ナル工事ニ使用スル鋼材ニ就キ昭和十年三月末日迄ニ註文スルモノノ供給ニ關シ日本製鐵株式會社取締役社長中井勵作(以下乙ト稱ス)ト契約スルコト左ノ如シ

第一條 乙ハ別紙鋼材價格表ニ依リ日本製鐵株式會社

海軍公報(部内限) 第千八百十九號

昭和九年六月十九日

三〇一

八幡製鐵所ノ製品ヲ甲又ハ甲ノ指定スル者ニ供給スルモノトス

第二條 乙ハ前條ニ依リ供給スベキ鋼材ノ製造工事ニ就テハ總テ在八幡海軍造船監督官(以下監督官ト稱ス)ノ監督検査ヲ受クルモノトス

第三條 鋼材ハ官ノ指定スル規格ニ合格セルモノナルヲ要ス

第四條 甲又ハ甲ノ指定スル者鋼材ノ供給ヲ受ケントスルトキハ普通新製品、海軍指定在庫品及海軍指定外在庫品毎ニ品名、寸法、規格、數量、納期、納入場所其ノ他必要ナル事項ヲ記載シタル註文書ヲ監督官ヲ經テ乙ニ送付スルモノトス

第五條 乙ハ前條註文書ヲ受ケタルトキハ之ト同一書式ニ依リ購買番號、單價、代價其ノ他必要ナル事項ヲ記載セル明細書ヲ附シタル承諾書ヲ監督官ヲ經テ註文者ニ提出スルモノトス

第六條 官へ納入スル鋼材ニ對シテハ之ガ陸揚運搬ニ要スル起重機、運搬車、軌道等ノ設備ハ官ノ指揮監督ノ下ニ無償ニテ之ヲ使用セシムルモノトス

第七條 鋼材納入地ニ到達シタルトキハ受領者ハ必要ト認ムル検査ヲ行ヒ之ガ引渡ヲ受クルモノトス

第八條 乙ハ鋼材ノ納入ヲ終リタルトキハ内譯明細書ヲ附シタル代金請求書ヲ註文者ニ提出スルモノトス  
分割納入ノ場合ニアリテハ前項ニ準ジ請求書ヲ提出スルコトヲ得

第九條 官ニ納入シタル鋼材代價ニ對シテハ前條ニ依リ代金請求書受理後十五日以内ニ當該支田官ニ於テ支拂フモノトス但シ海軍契約規程第六條ニ依ル減少金ハ之ヲ免除スルモノトス

第十條 乙ハ當該支田官ノ承諾ヲ受クルニ非ザレバ本契約ニ因リテ生ズル官ニ對スル債權ヲ第三者ニ讓渡スルコトヲ得ザルモノトス

第十一條 乙ハ本契約ニ關シテハ軍事上ノ秘密ヲ嚴守スルノ義務アルモノトス

第十二條 本契約ニ明揭ノ外ハ大正十一年四月海軍省令第十一號海軍契約規程並海軍契約規程施行手續及海軍艦政本部ト製鐵所トノ間ニ協定セル海軍用鋼材需給ニ關スル協議會協定要項(昭和四年九月及昭和八年八月協定)並ニ海軍用鋼材購入方法(昭和五年一月及昭和八年八月協定)ニ依ルモノトス  
右契約ノ確定ヲ證スル爲本書試通ヲ作り雙方記名調印シテ各自其ノ壹通ヲ保有スルモノトス

昭和九年四月壹日

海軍省經理局長 村上 春一

東京市京橋區木挽町七ノ五ノ一

日本製鐵株式會社

取締役社長 中井 勵作

(別紙)

種	海軍規格品				別	普通新作品	海軍指定 在庫品	海軍指定外 在庫品	記 事		
	艦船材	汽罐力鋼	高張力鋼	D S 特製堅質鋼						軟鋼	
										鋼板	條鋼
	同	同	同	同	同	同	同	同	一、冷間引拔丸鋼ハ壓延品ノ參拾圓増トス 一、本表代價中ニハ官指定ノ納入地迄ノ運搬費ヲ含ム		
	同	同	同	同	同	同	同	同			
	同	同	同	同	同	同	同	同			
	同	同	同	同	同	同	同	同			

海軍公報(部内限)第千八百十九號 昭和九年六月十九日

三〇三

部内限

昭和九年六月十九日

海軍艦政本部

部内高等官及判任官御中

住宅建築資金貸出ノ件通知

今般共済組合資産中ヨリ住宅組合ニ住宅建築資金貸出ノコト、  
致候條希望ノ向ハ左記ニ依リ申込相成度

記

- 一、住宅組合(七名以上)ハ現役又ハ在職ノ高等官又ハ判任官(准  
士官及判任文官)ノ組織スルモノタルコト
  - 二、貸付金額ハ一人ニ付高等官五千圓以下判任官二千五百圓以下
  - 三、利率 年五分二厘 十々年元利均等月賦償還
- 追テ貸與手續住宅組合定款例等ハ申込次第送附ス

(終)

1289

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第千八百二十號

昭和九年六月二十日(水)  
海軍大臣官房

○通牒

官房機密第一二五〇號ノ三

昭和九年六月二十日

海軍次官

各鎮守府司令長官  
各要港部司令官

參謀會議ノ件申進

來九月一日、三日及四日ノ三日間ノ豫定ヲ以テ參謀會議ヲ開催相成候條首席參謀ヲシテ其ノ前日迄ニ軍令部ニ參集セシメラレ度

追テ旅費ハ配付豫算内ニ於テ支辨ノコトニ御了知相成度

軍務三機密第八五號

昭和九年六月二十日

海軍省軍務局長

各艦長司令殿

機關使用限度標準ニ關スル件照會

首題改訂ノ資料ト致度ニ付左記様式ニ依リ最近三箇年間ノ全力運轉成績ヨリ摘録ノ上至急直送ヲ得度

記

艦名

年月日	運轉種別	發生馬力	推進軸每 分回轉數	「タルビン」露氣 室(高壓滑弁開) 壓力 (kg/cm <sup>2</sup> )	「タルビン」第一 段落壓力 (kg/cm <sup>2</sup> )	罐燃燒度 (kg/m <sup>2</sup> )	振計測 器指數	排水量 (噸)	海上ノ 模樣

海軍公報(部内限) 第千八百二十號

昭和九年六月二十日

三〇五

<p>見所=竝事記</p> <p>滿載狀態(現狀)ノ排水量 三分ノ二滿載狀態(現狀)ノ排水量 滿載狀態(計畫)ノ排水量</p> <p>噸 噸 噸</p>	
<p>○辭令</p>	
<p>○昭和九年海軍大演習部隊編成中左ノ通被仰付</p> <p>海軍少將 白根 貞介</p> <p>第一根據地隊司令官兼第一防備隊司令官</p> <p>海軍少佐 前島 壽英 海軍大尉 木田 達彦 (各通)</p> <p>第一根據地隊參謀兼第一防備隊參謀</p> <p>海軍中佐 津田 源助</p> <p>第一根據地隊附兼第一防備隊附</p> <p>海軍機關中佐 竹下 英五郎</p> <p>第一根據地隊機關長兼第一防備隊機關長</p>	
<p>海軍軍醫少佐 關本 庄藏</p> <p>第一根據地隊軍醫長兼第一防備隊軍醫長</p> <p>海軍主計少佐 大須賀 貞材</p> <p>第一根據地隊主計長兼第一防備隊主計長</p> <p>海軍中佐 柿本 權一郎</p> <p>第一通信隊長</p> <p>海軍中佐 末廣 由巳</p> <p>第一方位測定管制所長 同 丹羽 正躬</p> <p>第一航空隊司令 海軍大佐 馬場 篤磨</p> <p>海軍少佐 增岡 增造</p> <p>第一航空隊飛行長兼飛行隊長 海軍機關少佐 有賀 進</p> <p>海軍軍醫大尉 有賀 進</p> <p>第一航空隊軍醫長兼第二航空隊軍醫長</p>	

第一航空隊主計長兼第二航空隊主計長	海軍主計大尉 稻葉 柁
第二航空隊司令	海軍中佐 岡田 次作
第二航空隊飛行長	海軍少佐 松村 建次
第二航空隊整備長兼分隊長	海軍機關大尉 東嶋 嘉一
第三航空隊司令	海軍大佐 松永 壽雄
第三航空隊飛行長	海軍少佐 加藤 唯雄
第三航空隊整備長	海軍機關少佐 内田 四五郎
第三航空隊軍醫長	海軍軍醫大尉 向後 正雄
第三航空隊主計長	海軍主計少佐 宮本 政男
鎮海航空隊司令	海軍中佐 別府 明朋
鎮海航空隊飛行長兼分隊長	海軍少佐 和田 三郎
鎮海航空隊整備長兼分隊長	海軍機關大尉 宮川 大槻
鎮海航空隊軍醫長	海軍軍醫大尉 平良 日露史
兼鎮海航空隊主計長	海軍主計大尉 深瀬 清太郎

(各通) 海軍藥劑少佐 小谷 正勝  
同 高尾 亮次郎  
昭和九年七月一日ヨリ八月三十一日迄臨時聯合艦隊司令部附被仰付(以上皆海軍省)

○雜款

○第七驅逐隊(潮、隴、曙)行動豫定  
地名 着 發  
横須賀 七月二日 六月二十九日  
福岡 七月二日 七月四日  
横須賀 六日

○郵便物發送先  
第七驅逐隊(潮、隴、曙)宛  
六月二十八日迄ニ到達見込ノモノハ 横須賀  
七月三日迄ニ同 福岡  
其ノ後ハ 横須賀

海軍公報(部内限) 第千八百二十號 昭和九年六月二十日

三〇七

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第千八百二十一號

昭和九年六月二十一日(木)

海軍大臣官房

○ 辭令

海軍技師 高木 義照  
海軍技手 久村 繁一

(各通) 技生 金子 家元

滿洲國へ出張ヲ命ス(六月廿日海軍省)

○ 雜款

○ 郵便物發送先

聯合艦隊司令部、第一艦隊司令部、軍艦金剛、霧島、  
第一戰隊司令部、軍艦扶桑、日向、第七戰隊司令部、  
軍艦長良、五十鈴、名取、第一水雷戰隊司令部、軍  
艦川内、第二十三驅逐隊(菊月、夕月、望月、三日月)、  
第五驅逐隊(松風、春風、旗風、朝風)、第二十九驅逐  
隊(疾風、追風、夕風、朝風)、第三十驅逐隊(睦月、  
卯月、如月、彌生)、第一航空戰隊司令部、軍艦赤城、  
第二驅逐隊(沖風、澤風、矢風)、特務艦間宮、鳴戸宛  
七月 七日迄ニ到達見込ノモノハ 山口縣栗野

同 十五日迄ニ同 高知縣宿毛  
同 十九日迄ニ同 大分縣別府

第一潜水戰隊司令部、軍艦長鯨、第八潜水隊(伊五、  
伊四)、第七潜水隊(伊三、伊一、伊二)宛  
七月十五日迄ニ到達見込ノモノハ 聯合艦隊司令部ニ伺ジ

左記ニ依リ假設無線電信所ヲ設置ス同期間電報ニハ  
「ハホ」ノ指定ヲ要セズ

自六月二十九日 山口縣栗野  
至七月八日  
自同 十九日 高知縣宿毛  
至同 十六日  
自同 十七日 大分縣別府  
至同 二十日

○ 正誤

一昨十九日通牒欄經契第三號ノ三四〇左記中別紙種別  
欄「壹貳ニ付」ハ「壹施ニ付」ノ誤

海軍公報(部内限) 第千八百二十一號 昭和九年六月二十一日

三〇九



(限 内 部)

# 海軍公報

(部内限) 第千八百二十二號

海軍大臣官房

昭和九年六月二十二日(金)

## ○令 達

官房第二八四六號

昭和六年官房第二七二一號中左ノ通改正ス

昭和九年六月二十二日

海 軍 大 臣

別表競技員ノ項中見張競技ノ欄「見張員」ノ下ニ「見張檢定被檢定者ヲ除ク」ヲ加フ  
同表報告ノ項中見張競技ノ欄「運用術練習艦長」及應急競技ノ欄「運用術練習艦ノ艦長」ヲ各「海軍航海學校長」ニ改ム

## ○辭 令

海軍中佐 松永 貞市

滿洲國へ出張ヲ命ス(海軍省)

## ○雜 款

○郵便物發送先

第二艦隊司令部、軍艦島海、摩耶、高雄、愛宕、第六戰隊司令部、軍艦青葉、衣笠、古鷹、第二水雷戰隊司令部、軍艦那珂、第六驅逐隊(電、響、雷)、第十二驅逐隊(白雲、叢雲、薄雲)、第十驅逐隊(曉、狹霧、漣)、第十一驅逐隊(深雪、初雪、白雪)、第二潛水戰隊司令部、軍艦山良、迅鯨、第十九潛水隊(伊五六、伊五八、伊五七)、第二十九潛水隊(伊六四、伊六一、伊六二)、第三十潛水隊(伊六七、伊六五、伊六六)宛

六月二十七日迄ニ到達見込ノモノハ 佐 世 保  
七月 五 日迄ニ 同 朝鮮 鎮 海  
同 七 日迄ニ 同 山口 縣 栗 野  
同 十五 日迄ニ 同 大分 縣 佐 伯  
同 十九 日迄ニ 同 別 府  
軍艦神威宛  
七月十四 日迄ニ到達見込ノモノハ 第二艦隊司令部ニ同ジ

海軍公報(部内限) 第千八百二十二號

昭和九年六月二十二日

三一

左記ニ依リ假設無線電信所ヲ設置ス同期間電報ニハ「ハホ」ノ指定ヲ要セズ

自	七月	七日	山口縣栗野
至	同	八日	
自	同	九日	大分縣佐伯
至	同	十日	
自	同	十一日	同 別府
至	同	十二日	

○郵便物發送先變更(六月二十二日 本欄参照)

特務艦間宮宛

七月	七	日迄ニ到達見込ノモノハ	山口縣栗野
同	九	日迄ニ	門司
同	十五	日迄ニ	高知縣宿毛
同	二十	日迄ニ	吳

( 限 内 部 )

海軍公報

(部内限) 第千八百二十三號

海軍大臣官房

昭和九年六月二十三日(土)

○ 通 牒

恩第三三八號

昭和九年六月二十三日

海軍省人事局長

關係各廳長殿

恩給年加算ニ關スル件通牒

昭和八年十二月七日内閣告示第五號ニ依リ滿洲國(舊滿洲、東內蒙古及熱河)竝ニ其ノ接壤地帯ニ在リテ戰鬪力構成ニ參加從軍シタル公務員ニ對シテハ恩給法第三十二條第一項第一號ヲ準用スル同條第二項ノ規定ニ依ル加算ヲ爲シツ、アル處本年四月一日以降ノ加算ニ就テハ目下詮議中ニ付何分ノ決定アルマデ右該當者ニ對スル四月一日以後ノ加算ハ恩給法第三十五條ノ規定ニ依ル外國鎮戍トシテ御取扱相成度

航本第二一九三號

昭和九年六月二十二日

海軍航空本部長

各(吳ヲ除ク)海軍工廠長)殿  
海軍航空廠長)殿

航空兵器修理材料供給追加ノ件通牒

三月十六日航本機密第四三二號首題通牒中伊號第五潜水艦ノ次ニ左記ヲ追加ス

但シ軍艦足柄、羽黒、加古ノ分ハ今次大演習期間中ノ經費トス

記

供給先	年額
軍艦伊勢	一五〇圓
軍艦榛名	一五〇圓
軍艦足柄	五〇圓
軍艦羽黒	五〇圓
軍艦加古	五〇圓

海軍公報(部内限) 第千八百二十三號

昭和九年六月二十三日

三一三

軍艦	阿武隈	一〇〇圓
軍艦	神通	一〇〇圓
軍艦	鬼怒	一〇〇圓
軍艦	多摩	一〇〇圓
軍艦	出雲	一〇〇圓

(昭和九年三月二十二日公報(部内限)参照)

○ 雜 款

○郵便物發送先變更(六月二十二日 本冊参照)

第一航空戰隊司令部、軍艦赤城、第二驅逐隊(沖風、澤風、矢風)宛

七月 七 日迄ニ到達見込ノモノハ 佐 世 保 其ノ後ハ 第一艦隊司令部ニ同ジ

電報ハ佐世保鎮守府氣付トシ「ハホ」ノ指定ヲ要セズ

○ 懲 罰

懲罰特免告達書

( 限 内 部 )

海軍公報

(部内限) 第千八百二十四號

昭和九年六月二十五日(月)

海軍大臣官房

○ 通 牒

經契第三號ノ三二五

昭和九年四月一日

海軍省 經理局長

關係契約擔任官殿

デユラルミン材購買ニ關スル件通知

デユラルミン材購買ニ關シ左記ノ通り住友伸銅鋼管株式會社ト協定致候條右ニ依リ處理相成度

記

協 定 書

海軍省經理局長村上春一ハ左記デユラルミン材ノ購買ニ關シ供給者住友伸銅鋼管株式會社專務取締役古田俊之助ト協定スルコト左ノ如シ

品 名

デユラルミン板(大板、小板)

同 帶板

同 管

同 棒

同 線及鉸

同 型材

一、本協定期間ハ昭和九年四月壹日ヨリ昭和十年參月參拾壹日迄トス

但本協定期間中ト雖官ニ於テ必要ト認ムル場合ハ他社ヨリ購入スルコトヲ妨ゲザルモノトス

一、本協定ニヨル價格ハ別表ノ通「ベース値」及「値増」ヨリ成リ納入地(内地ニ限ル)迄ノ運賃其他納入ニ要スル一切ノ費用ヲ含ムモノトス

一、本協定ニヨル價格ハ海軍造船機造兵主要材料試驗検査規則航空機之部第六章所定ニ合格又ハ之ニ類似ノデラルミン材ニ適用ス

一、特殊寸度ノモノ、少量ノモノ、新ニ設備ヲ要スルモノハ相當値増ヲ爲スモノトス

規格ナキモノ又ハ製造容易ナルモノハ相當値引ヲ

海軍公報(部内限) 第千八百二十四號 昭和九年六月二十五日

三一五

爲スモノトス

一、鍛造品、加工品等一律ニ價格協定シ難キモノハ其ノ都度決定スルモノトス

右協定ノ確實ヲ證スル爲メ本書式通ヲ作成シ雙方記名調印シ各其ノ壹通ヲ保有ス

昭和九年四月壹日

海軍省經理局長 村上 春一

住友伸銅鋼管株式會社

專務取締役 古田 俊之助

(別表七葉添)

○雜款

○郵便物發送先

吳警備戰隊司令部、軍艦阿武隈、第十三驅逐隊(吳竹、若竹、早苗)、第十九驅逐隊(敷波、綾波、浦波)、第二十驅逐隊(東雲、磯波、吹雪)宛

六月三十日迄ニ到達見込ノモノハ 吳

七月 四 日迄ニ 同 愛媛縣長濱

其ノ後ハ 吳

第二十八驅逐隊(蓬、蓮、蓼)宛

七月 四 日迄ニ到達見込ノモノハ 福 岡

其ノ後ハ

鎮 海

海軍用デユラルミン材價格表

種 別	Base 價 (延=付四)	備 考																																		
大 板	5.90	<p>特定標準寸度及其價格</p> <p>標準寸度ヲ下記ノ通り特定シ之ガ價格ハ 下記特定價格ニヨルモノトス</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>特定標準寸度</th> <th>特定價格 (延=付四)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">大</td> <td><math>0.5^m/m \times 1.000^m/m \times 2.000^m/m</math></td> <td>7.00</td> </tr> <tr> <td>0.6 × " × "</td> <td>6.40</td> </tr> <tr> <td>0.7 × " × "</td> <td>6.10</td> </tr> <tr> <td>0.8 × " × "</td> <td>5.95</td> </tr> <tr> <td>1.0 × " × "</td> <td>5.90</td> </tr> <tr> <td>1.2 × " × "</td> <td>5.85</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">板</td> <td>1.4 × " × "</td> <td>"</td> </tr> <tr> <td>1.6 × " × "</td> <td>"</td> </tr> <tr> <td>2.0 × " × "</td> <td>5.70</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">小</td> <td>0.5 × 600 × 2,000</td> <td>5.70</td> </tr> <tr> <td>0.6 × " × "</td> <td>5.60</td> </tr> <tr> <td>0.8 × " × "</td> <td>5.50</td> </tr> <tr> <td>1.0 × " × "</td> <td>5.40</td> </tr> <tr> <td>1.2 × " × "</td> <td>5.30</td> </tr> </tbody> </table>		特定標準寸度	特定價格 (延=付四)	大	$0.5^m/m \times 1.000^m/m \times 2.000^m/m$	7.00	0.6 × " × "	6.40	0.7 × " × "	6.10	0.8 × " × "	5.95	1.0 × " × "	5.90	1.2 × " × "	5.85	板	1.4 × " × "	"	1.6 × " × "	"	2.0 × " × "	5.70	小	0.5 × 600 × 2,000	5.70	0.6 × " × "	5.60	0.8 × " × "	5.50	1.0 × " × "	5.40	1.2 × " × "	5.30
	特定標準寸度		特定價格 (延=付四)																																	
大	$0.5^m/m \times 1.000^m/m \times 2.000^m/m$		7.00																																	
	0.6 × " × "		6.40																																	
	0.7 × " × "		6.10																																	
	0.8 × " × "		5.95																																	
	1.0 × " × "		5.90																																	
	1.2 × " × "		5.85																																	
板	1.4 × " × "		"																																	
	1.6 × " × "		"																																	
	2.0 × " × "	5.70																																		
	小	0.5 × 600 × 2,000	5.70																																	
0.6 × " × "		5.60																																		
0.8 × " × "		5.50																																		
1.0 × " × "		5.40																																		
1.2 × " × "	5.30																																			
小 板	5.50																																			
帶 板	厚 $1^m/m$ 以上	6.00																																		
	厚 $1^m/m$ 未滿	6.30																																		
管	10.80																																			
棒	6.00																																			
線	8.10																																			
鋸	10.60																																			
プロフィール	9.90																																			
(各値増ハ別表ニヨル)		(協定價格ヨリ 大板 ¥ 0.40 引キ 小板 ¥ 0.30 引キ)																																		

(昭和九年六月二十五日公報(部内限)別表)

1300

デュラルミン大板値増表

厚 m/m以上	幅×長 m/m m/m 1000×2000 (庇=付可)	m/m m/m 1220×2440 (庇=付可)	m/m m/m 1525×3050 (庇=付可)	備 考
0.5	1.50	3.00		1. 本表ハ帯板及小板ニ屬セザルモノニ適用ス 2. 長サ 300m/m ヲ増ス毎ニ「庇=付¥.03」値増ノ事 3. 本表ニ記載ナキ中間幅寸度品ハ本表ノ近キモノヲ適用ス
0.55	1.10	2.50		
0.6	.90	2.00		
0.7	.60	1.60		
0.8	.45	1.20	3.00	
0.9	.40	.90	2.30	
1.	"	.80	1.80	
1.2	.35	.70	1.50	
1.5	"	.60	1.20	
1.7	.30	.55	1.00	
1.8	"	.45	.80	
2	.20	.40	.70	
3	"	.35	.60	
4	Base	.30	.50	
5	.30			
13	.40			
16	.50			
19	.60			
22	.70			
25	.80			

◎ 本表記載以外ノ寸度品ニテモ製造可能ノモノハ注文差支ナシ

(昭和九年六月二十五日公報(部内限)別表)

1301



デ ュ ラ ル ミ ン 管 値 増 表

(距=付四)

厚 <sup>m</sup> / <sub>m</sub> 以上 外徑 <sup>m</sup> / <sub>m</sub> 以上	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1	1.5	2	4	10	
5	14	13	11	9	8	7	6					
6	13	12	10	8	7	6	5	3.5				
8	12	10	8	7	6	5	4	3				
10	11	9	7	6	5	4	3	2.5	2			
12	10	8	6	5	4	3	2	2	1.5			
15		6	5	4	3.5	3	2	1.5	1			
20		6	5	4	3	2.5	2	1.5	0.5			
25			4.5	3.5	3	2.5	2	1	0.5			
30			4	3	2.5	2.5	1.5	0.5				
40					2.5	2.5	1.5	0.5				
50						3	2	1	Base			
60						3	2	1				
70							2	1				
80							2.5	1.5	0.5	1	1.5	
100								2.5	1.0	1.5	2	
120									1.5	2	2.5	
140									2	2.5	3	
160									2.5	3	3.5	
180									3	3.5	4	

◎ 本表記載以外ノ寸度品ニテモ製造可能ノモノハ註文差支ナシ

(昭和九年六月二十五日公報(第内限)別表)

1302

デニラルミン棒、線、鋳値増表

種別 徑 <sub>m</sub> / <sub>in</sub>	丸棒 (註=付内)	種別 徑 <sub>m</sub> / <sub>in</sub> 以上	丸線 (註=付内)	鋳 (丸平頭) (註=付内)	備考
10~13	1.50				
14~16	1.00	2	6.00	6.00	
17~24	.50	2.5	5.00	5.00	
25~50	Base	3	3.00	3.00	
51~57	.50	3.5	2.00	2.00	
58~64	1.00	4	"	"	
65~76	1.50	5	1.00	1.00	
77~100	2.00	6~8	.50	.50	
101~110	2.50	9	Base	Base	
111~120	3.00				
121 以上	徑15 <sub>m</sub> / <sub>m</sub> (又ハ未滿) 毎= ¥.50 増				
六角棒・平角棒ハ相當寸度 ノ丸棒價格ヨリ ¥.50 増 ノコト					

◎ 本表記載以外ノ寸度品ニテモ製造可能ノモノハ註文差支ナシ

(昭和九年六月二十五日公報(部内限)別表)

1303

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

デニラルミン帯板値増表

厚 <sup>m</sup> / <sub>m</sub> 以上	厚サ上リ (延=付用)	幅上リ (延=付用)	長さ上リ (延=付用)	備考
0.25	1.00			本表ハ { 厚 3 <sup>m</sup> / <sub>m</sub> 以下 { 幅 500 <sup>m</sup> / <sub>m</sub> 以下 } =適用ス { 長 2001 <sup>m</sup> / <sub>m</sub> 以上 }
0.3	.80	100 <sup>m</sup> / <sub>m</sub> 以上 } = ¥1.0		
0.35	.70	400 <sup>m</sup> / <sub>m</sub> 未満 }		
0.4	.60			
0.5	.50	400 <sup>m</sup> / <sub>m</sub> = Base	3000 <sup>m</sup> / <sub>m</sub> 未満 = Base	
0.6	.40	450 <sup>m</sup> / <sub>m</sub> 以下 = ¥1.0	3000 <sup>m</sup> / <sub>m</sub> 以上 = ¥.30	
0.8	.30			
1.	.20	500 <sup>m</sup> / <sub>m</sub> 以下 = ¥.20	4000 <sup>m</sup> / <sub>m</sub> 以上 = ¥.40	
1.2	.10			
1.4~3	Base			
◎ 本表記載以外ノ寸度品ニテモ製造可能ノモノハ注文差支ナシ				

(昭和九年六月二十五日公報(部内限)別表)

デュラミンプロファイル値増表

種別 厚 <sup>m</sup> /m	山型プロファイル (A)		種別 厚 <sup>m</sup> /m	其他プロファイル (B)	備考
	└型 (底=付用)	└型 (底=付用)			
			0.5未満	7.50	◎ (A) (B) 共既ニ型設備アルモノニ限リ適用ス ◎ 山型プロファイル以外ハ (B) ニ依ル ◎ 山型プロファイル └型ハ└プロファイルヲ示ス └型ハ└プロファイルヲ示ス
0.5以上	3.50		0.5以上	7.00	
0.7 "	2.50	4.00	0.6 "	6.50	
1.0 "	1.50	3.50	0.7 "	6.00	
1.51 "	1.00	3.00	0.8 "	5.50	
1.71 "	.50	2.50	0.9 "	5.00	
2.0 "	Base	1.00	1.0 "	4.50	

◎ 本表記載以外ノ寸度品ニテモ製造可能ノモノハ注文差支ナシ

昭和九年六月二十五日公報 (部内限) 別表

デユラルミン小板値増表

厚 <sup>m</sup> / <sub>m</sub> 以上	厚サ上リ (延=付四)	幅上リ (延=付四)	備考
			本表ハ { 厚 0.3 <sup>m</sup> / <sub>m</sub> 以上 ~ 3 <sup>m</sup> / <sub>m</sub> 以下 幅 700 <sup>m</sup> / <sub>m</sub> 以下 長 2000 <sup>m</sup> / <sub>m</sub> 以下 } =適用ス
0.3	.80	600 <sup>m</sup> / <sub>m</sub> 以下=Base	
0.4	.60		
0.5	.50	700 <sup>m</sup> / <sub>m</sub> 以下=¥.10	
0.6	.40		
0.8	.30		
1.	.20		
1.2	.10		
1.5~3	Base		
◎ 本表記載以外ノ寸度品ニテモ製造可能ノモノハ註文差支ナシ			

(昭和九年六月二十五日公報(部内隠)別表)

( 限 内 部 )

海軍公報

(部内限) 第八百二十五號

海軍大臣官房

昭和九年六月二十六日(火)

○ 令 達

官房第二八九九號

左記ニ依リ海軍練習航空隊特修科學生ヲ採用ス

昭和九年六月二十六日

海軍大臣

記

特修科目		航空術(整備)	
修學場所		霞ヶ浦海軍航空隊	
採用員數		所管鎮守府員數	五
横須賀	吳	佐世保	四
採用資格		昭和七年十一月以降機關兵曹長ニ任用セラレタル者ニシテ將來整備科ニ轉科ヲ希望スル者	
採用時期		昭和九年十一月一日	
修業期間		九箇月	

海軍公報(部内限) 第八百二十五號

昭和九年六月二十六日

三一七

1307

( 限 内 部 )

海軍公報 (部内限) 第千八百二十六號

海軍大臣官房

昭和九年六月二十七日(水)

○ 通 牒

教育第五〇號ノ一八

昭和九年六月二十六日

海軍省 教育局

關係各廳御中

無線電信遠距離受信檢定成績調査資料

ノ件通知

昭和九年六月第十八回無線電信遠距離受信檢定信文送信要目左記ノ通

記

信文 佐世保海軍無線電信所 送信

番號 送信日時 速度(分間) 信文修正

一	六月十四日 午後一時二分	八〇	
二	同 一時五分	八〇	
三	同 一時十分	八〇	
四	同 一時十四分	八〇	
五	同 一時十九分	八〇	
六	同 一時二十三分	八〇	
七	同 一時二十七分	八〇	
八	同 一時三十分	八〇	
九	同 一時三十六分	七八	
一〇	同 一時四十一分	七九	
一一	同 一時四十四分	八〇	
一二	同 一時四十八分	八〇	
一三	同 一時五十二分	八〇	
一四	同 一時五十五分	八〇	本文四十六字目、スヲ(ユ)下送信ス

海軍公報(部内限) 第千八百二十六號

昭和九年六月二十七日

三一九

1308

一五	同	一時五十八分	八〇
一六	同	二時一分	八〇
備	一、天	候曇	
考	一、送信状態	良好	

昭和九年海軍大演習特設司令部事務開始左ノ通

昭和九年六月二十七日

大演習 統 監 部

第一根據地司令部ハ來七月一日ヨリ佐世保防備隊ニ於テ事務取扱ヲ開始シ七月十八日常磐ニ變更ス

○ 雜 款

○第十四驅逐隊(夕顔、菊、葵) 行動豫定

地名	着	發
新舞鶴	六月二十六日	六月二十五日
淺海灣	七月三日	二十九日
博多灣	七月五日	五日
萩	七月五日	六日
新舞鶴	七月七日	七日

○郵便物發送先  
第十四驅逐隊(夕顔、菊、葵)宛  
七月四日迄ニ到達見込ノモノハ  
同 五日迄ニ同  
其ノ後ハ  
福岡 萩 新舞鶴



( 限 内 部 )

海軍公報

(部内限) 第千八百二十七號

海軍大臣官房

昭和九年六月二十八日(木)

○ 通牒

教育第五〇號ノ一九

昭和九年六月二十六日

海軍省教育局

關係各廳御中

無線電信遠距離受信檢定成績調査資料

ノ件通知

昭和九年六月第十九回無線電信遠距離受信檢定信文送  
信要目左記ノ通  
記

伊號第一潜水艦 送信

番號 送信 日時 速度(一分間) 信文修正

一 六月二十一日  
午後二時二分 七四

二 同 一時五分 八〇

三四同 一時四十七分	七六	本文四十六字目「ス」ヲ「ユ」ト送信ス
一三同 一時四十三分	七五	
一二同 一時四十分	八一	
一一同 一時三十七分	七四	
一〇同 一時三十三分	七六	
九同 一時三十分	七五	
八同 一時二十七分	七六	
七同 一時二十三分	七六	本文八十二字目「ル」不正
六同 一時二十分	七六	本文四十七字目「エ」不正
五同 一時十六分	七六	
四同 一時十三分	七六	本文七字目「メ」不正
三同 一時八分	七八	

海軍公報(部内限) 第千八百二十七號

昭和九年六月二十八日

三二一

一五	同	一時五十分	七四
一六	同	一時五十三分	七四
備一、天候晴	ウネリアリ		
考一、送信状態	良好		

○ 辭令

豫備役海軍少將 岩村 兼言  
 右自昭和九年七月十八日約三箇月間演習ノ爲召集ス  
 後備役海軍少佐 阿部 政夫  
 右自昭和九年七月二十日約三箇月間演習ノ爲召集ス  
 豫備役同 坪郷 悦馬  
 豫備役海軍大尉 神谷 健一  
 右自昭和九年七月二十日至八月二十八日四日間演習ノ爲召集ス  
 同 勝畑 清  
 右自昭和九年七月二日至八月十六日四日間演習ノ爲召集ス  
 豫備役海軍機關大尉 宮本 秀藏

右自昭和九年七月二十日至八月二十八日四日間演習ノ爲召集ス  
 豫備役海軍軍醫大尉 鍋島 勉  
 (各通) 同 鈴木 要  
 右自昭和九年七月十八日約三箇月間演習ノ爲召集ス  
 同 佐藤 幹  
 同 久野 馨  
 同 吉村 良一  
 豫備役海軍軍醫中尉 兒玉 豊秀  
 同 天野 毅彦  
 同 橋本 義一  
 右自昭和九年七月二十日約三箇月間演習ノ爲召集ス  
 召集中左ノ通被仰付  
 佐世保鎮守府附 海軍少將 岩村 兼言  
 第一通信隊附 海軍少佐 阿部 政夫  
 (各通) 同 坪郷 悦馬  
 佐世保防備隊附 海軍大尉 神谷 健一  
 横須賀海軍航空隊附 同 勝畑 清  
 佐世保防備隊附 海軍機關大尉 宮本 秀藏

第一艦隊司令部附	海軍軍醫大尉	鍋島勉
伊勢乗組	同	佐藤幹
第二艦隊司令部附	同	鈴木要
第一通信隊附	同	久野馨
第四艦隊司令部附	同	吉村良一
	海軍軍醫中尉	兒玉豊秀
第一根據地隊附兼第一防備隊附	同	
大井乗組	同	天野毅彦
	同	橋本義一
伊勢乗組(以上 <sup>六</sup> 月 <sup>十八</sup> 日海軍省)	同	

○雜款

○郵便物發送先

第一潜水戰隊司令部、軍艦長鯨、第八潜水隊(伊五、伊四)、第七潜水艦(伊三、伊一、伊二)宛

七月、七 日迄ニ到達見込ノモノハ 山口縣栗野

同 十五 日迄ニ 同 高知縣宿毛

同 二十三 日迄ニ 同 横須賀

八月三十一日迄ニ 同 北海道室蘭

其ノ後ハ 第一艦隊司令部ニ同シ

軍艦能登呂宛

○懲罰

七月十三 日迄ニ到達見込ノモノハ 雄基

其ノ後ハ 佐世保

懲罰特免書達書

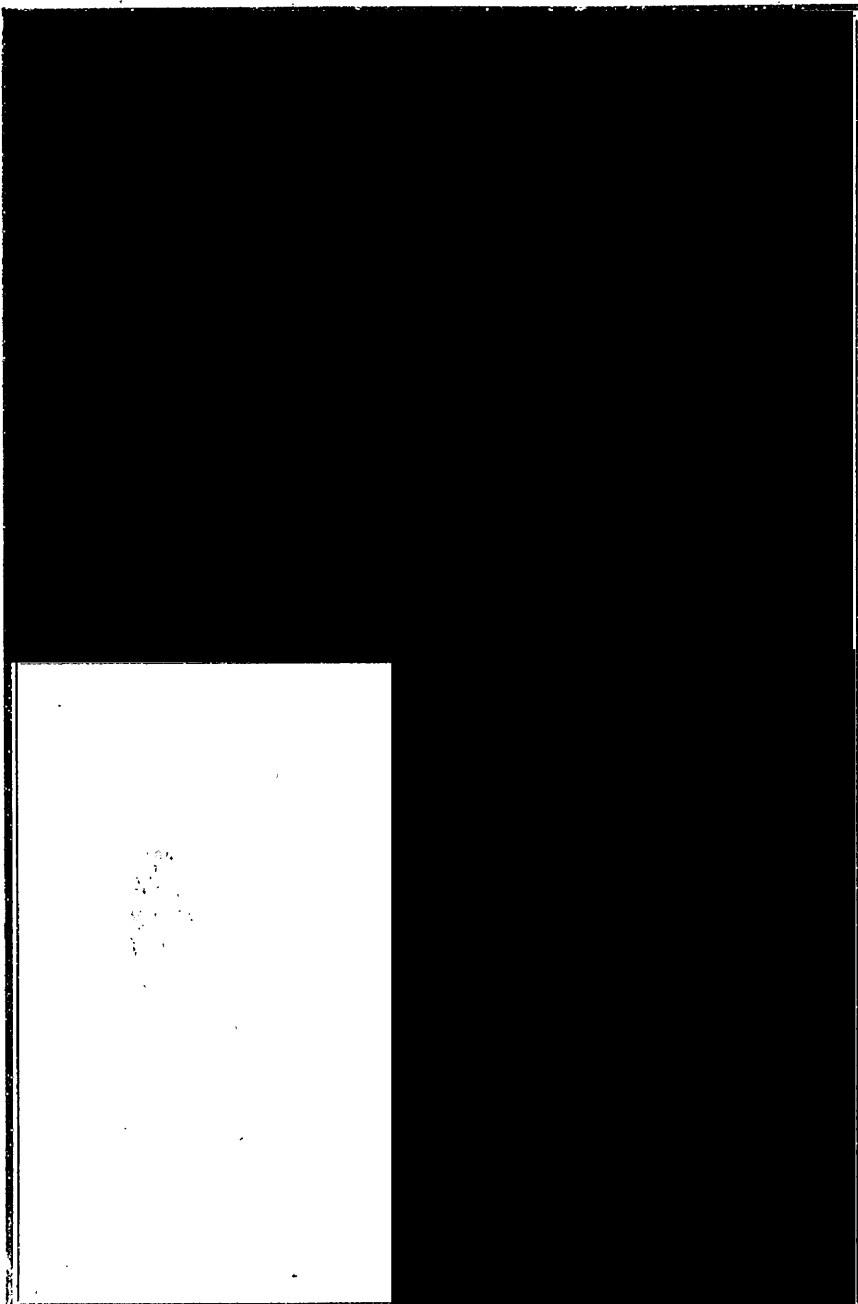
海軍公報(部内限)第千八百二十七號 昭和九年六月二十八日

三三三

海軍公報（部内限）第千八百二十七號

昭和九年六月二十八日

三二四



1313

( 限 内 部 )

海軍公報 (部内限) 第千八百二十八號

海軍大臣官房

昭和九年六月三十日(主)

○ 令 達

官房第二九五八號

大正六年官房第一〇二二號中左ノ通改正ス

昭和九年六月三十日

海軍大臣

○ 判 決

判 決

陶器三角ノ次ニ左ノ如ク加フ  
印櫛、ペン軸、繪具皿(磁器製)、筆洗皿(磁器製)、  
磁製蒸發皿、磁製小舟、リットルフラスコ、弦掛鋸ノ  
刃、野球用バット、ボール(野球用、庭球用、卓球用)、  
紙屑籠、螺錐(徑二耗以下)、竹刀、箕

(参照) 大正六年官房第一〇二二號ハ造船造兵工業用器  
其中消耗器具トシテ取扱ノ件ナリ

(會計法規類集下卷二三頁参照)

○ 雜 款

海軍公報(部内限) 第千八百二十八號

昭和九年六月三十日

三二五

1314

海軍公報(部内限) 第千八百二十八號

昭和九年六月三十日

三二六

1315

海軍公報 (部内限) 第千八百二十八號

昭和九年六月三十日

三二七

1316

海軍公報(部内限) 第八百二十八號 昭和九年六月三十日

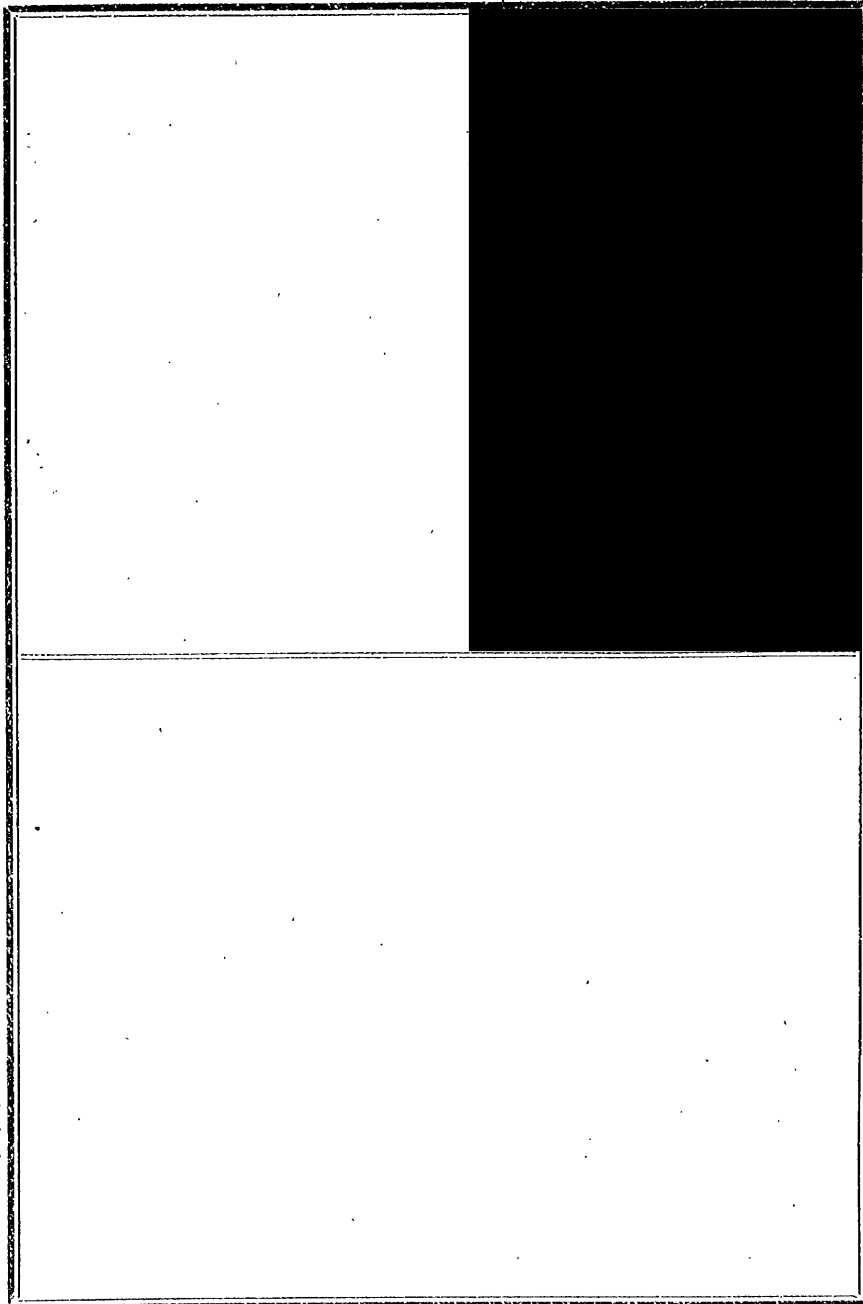
三二八

1317



海軍公報（部内限）第千八百二十八號 昭和九年六月三十日

三二九



1318